

第 26 回新型コロナウイルス感染症対策協議会 委員ご意見

議題（１）第八波に向けた大阪府の対応強化方針について

委員	意見
掛屋会長	<p>○第八波に向けた大阪府の対応強化方針・対応強化に向けた取組みについて</p> <p>全国的に新規陽性患者数の増加傾向が認められ、第八波の入り口である可能性が高い。人々の活動制限等が設けられていないため、大規模な感染拡大となる可能性がある。また、この冬は季節性インフルエンザとの同時流行が危惧される。一方、発熱外来を担当する医療機関は、コロナ流行前と比較すると減少しているため、発熱外来の強化が急務であるが、流行ピーク時には受診できない患者が増加することが推測される。市町村単位で、十分な休日夜間診療所や臨時外来の確保を行うとともに、現在発熱外来を担当していない「かかりつけ医」にも協力を呼びかけ続けることが重要である。病床確保に関しては、現在オミクロン株が主流となり、重症病床と比較して軽症中等症病床のニーズが高くなっているため、十分な軽症・中等症病床確保が期待される。今後の流行株の特徴に応じた病床コントロールが必要である。</p> <p>新型コロナでは高齢者や免疫不全者等に重症化リスクが高く、同患者群に対して対応強化を行うことが求められる。一方で、インフルエンザでは小児も重症化する可能性が高く、小児医療の充実強化が必要である。</p>
乾委員	<p>第八波に向けた大阪府の対応強化方針については、概ね賛同いたします。医療・療養体制の強化において、経口コロナウイルス治療薬をはじめ医薬品の供給について、地域の薬局・薬剤師の活用を具体的に検討いただきたい。発熱外来の強化策の出張型臨時発熱外来の設置に関して、各地域において要請により薬剤師会として市町村及び医師会と連携して、薬剤師の派遣等協力できればと考えています。</p>
木野委員	<p>昨今我が国全体で感染対策が緩和されているように感じる。さらに、本年のオーストラリアにおけるインフルエンザと新型コロナ感染の同時流行、海外からの旅行者が急増している状況を考えると、今年の冬は我が国でもインフルエンザと新型コロナの同時流行が大いに危惧される。そして同時流行することで重症例や死亡者の増加が懸念される。さらに虚血性心疾患や脳血管障害、肺炎等が増加する季節である。コロナ病床を確保することで、それらの一般医療が制限されることは絶対に避けなければならない。ここで改めて府民に注意を喚起することが重要である。ワクチン接種に関しては、アナフィラキシーや様々な副作用についての情報がSNSを通じて拡散されている。その結果、高齢者等、必要な方へのワクチン接種率が低下しているように思う。ある一定の確率で起こる副作用等のネガティブな情報も行政からしっかりと情報提供し、その上でワクチン接種の有効性を府民にアピールしていただきたい。さらにある一定の病床数の確保は必要であると理解しているが、必要時には大阪府と医療機関が十分連携をとりながら、コロナ患者や一般患者へと病床を自由に融通し確保できるよう柔軟な病床運営を期待する。</p> <p>その他は、大阪府が今回示されている対応強化方針に賛成する。</p>

委員	意見
<p>忽那委員</p>	<p>大阪府の第 8 波に向けた対応強化方針に賛成する。新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は 10 月上旬を底に緩徐に増加傾向にある。第 6 波、第 7 波のときのような急激な拡大ではないものの、底であった 10 月上旬の時点で週 1 万 5 千人と規模が大きいことから、このまま拡大が続けば医療に与える影響は深刻となる可能性がある。現時点では医療機関は逼迫している状況ではない。インフルエンザとの同時流行が起こる可能性を考慮すると、入院病床も重要ではあるが、発熱外来の逼迫の方が深刻になる可能性があり、<u>発熱外来を行う診療所・医療機関を少しでも増やしていくことが重要と思われる。</u></p> <p>オミクロン株対応ワクチンが利用可能となっており、高齢者だけでなく小児においても接種率を高めることが流行の規模を小さくするためには重要である。第 7 波においては小児の重症例が全国的にみられたが、大阪府の小児のワクチン接種率は全国でも低く、<u>大阪府にはより積極的な接種推進を求めたい。</u></p>

委員	意見
高井委員	<p>・このたび提示を受けた「第八波に向けた大阪府の対応強化方針」に関し、意見等を下記に記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対応方針 1（府民による「備え」と「対策」の徹底） <p>・国の方針もあり、コロナとインフルの同時流行下においては、自己検査（セルフチェック）が主流となることが想定される。資料内では、自己検査の結果を踏まえて、かかりつけ医や診療・検査医療機関を受診する流れになっている。仮に検査結果が『陰性』であっても、医療の基本原則は『対面診療』であり、まずは事前に電話連絡の上、医療機関を受診するようお願いしたい。また、受診の際には、各種資料内においても、「事前の医療機関への連絡」を明記いただきたい。</p> <p>・国が進めるコロナワクチン接種により、地域のかかりつけ医と繋がる機会が得られると思われる。ワクチン接種等を通じて『かかりつけ医』を見出すことにより、いざというときの診療につなげていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対応方針 2（感染規模を踏まえた医療・療養体制の強化） <p>・第7波ピーク時（本年8月）の診療所等における検査件数は約70万件、自宅宿泊療養者への再診は約34万件との報告を受けている。前述の数値（実績）を踏まえると、府内の医療機関は、診療・検査医療機関の指定有無に関わらず、新型コロナ対応を行っているものと考えられる。</p> <p>・本会からの提案もあり、10月に追加された「準A型（診療・検査医療機関の指定区分）」については、区分変更や新規参加を改めて会員に周知し、府内の医療提供体制の充実を更に進めたい。</p> <p>・すでに市町村・市民病院と協力して休日の診療にあたっている地区医師会がある。その地区からの意見として、診療状況を公表することで、多くの患者が集中し、診療が維持できないとの強く危惧が伝えられている点をご理解いただきたい。</p> <p>・<u>地域では構築可能な体制を取りつつも、大きな波に対しては、（大阪府等が開設する）大規模発熱・診療外来が必要であると重ねて申し上げたい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対応方針 3（高齢者対策と小児対策の強化） <p>・感染（再）拡大等に備え、継続して宿泊療養施設を確保している点を評価したい。専門人材を確保することは難しいと思うが、<u>施設や自宅での療養が難しい高齢者については、可能な限り宿泊療養施設（今回付加された「介護支援付加型」「生活機能維持型」も活用しつつ）での管理が望ましい。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全体を通して <p>・今般の資料では、「With コロナに向けた新たな段階（より強固な感染拡大防止と社会経済活動の両立と、重症化リスクの高い方への重点化）への移行」と記載されている。本年9月26日より、全国一律で全数届出の見直しを開始されたが、大阪府においては、陽性者の「全数登録」を目指した体制を当初から構築いただいたものと考えている。大阪府におかれては、今般の対応強化方針が、不安を抱える府民を見逃すことなく、しっかりと寄り添うスキームであるか今一度念頭において、施策を構築いただきたい。</p>

委員	意見
弘川委員	<p>感染状況を踏まえて重症病床と軽症中等症病床とのバランスを勘案して、さらなる軽症中等症病床の充実を図ることが重要であり、例えば、大阪コロナ重症センターの重症患者の入院状況を慎重に見極めながら、大阪府人材バンクを活用して、クラスターが発生した中小病院への看護師応援を強化するなどの方策を検討すべきである。</p> <p>宿泊療養施設における介護を要する高齢者への対応については、診療型宿泊療養施設への新たな機能付加だけでなく、<u>高齢者対応を本来の機能とする施設の活用を検討されたい（サービス付高齢者住宅、看護小規模多機能事業所など）。</u></p> <p>小児の新型コロナウイルス感染者の急増が喫緊の課題となる中で、検査キットの無料配布や入院フォローアップセンターの一元的な調整に加えて、<u>小児科を標榜する病院や診療所の新型コロナウイルスへの取組みをさらに強力に進めることが必要。</u></p>
深田委員	<p>対応強化方針に基づく取組のどこかに感染予防に繋がる口腔健康管理の必要性について記載いただけたら有難い。</p>
倭委員	<p><u>大阪府のこの冬における新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行における対応強化方針に賛同する。しかし、その取り組みにおいて、診療の基本はあくまでも対面診療による診察であって、簡易迅速キットを用いて行うオンライン診療は極めて医療が逼迫した際の対応であるということを忘れてはならないかと思う。迅速キットの感度は新型コロナウイルス感染症、季節性インフルエンザともにそれほど高くなく、ウイルス量が少ない時期には当然、偽陰性が出ることを念頭におく必要がある。新型コロナウイルスの迅速キットが陰性の際に、インフルエンザのキットで陽性が出れば診断がつき、早期治療に繋げることができるが、両者が陰性の場合に両者の偽陰性、他のRSウイルス感染症の可能性あるいは細菌性肺炎などの感染症を見逃してしまい治療が遅れることがないように発熱外来のさらなる体制整備にご尽力いただきたい。また、特に高齢者において新型コロナウイルス感染症＋細菌性肺炎、誤嚥性肺炎あるいは季節性インフルエンザ＋細菌性肺炎、誤嚥性肺炎の診断、治療が遅れないように外来、入院診療体制のさらなる整備をお願いしたい。さらに、府民に対して新型コロナウイルス感染症及び季節性インフルエンザのワクチン接種を小児も含めてしっかりと呼びかけていただきたい。9歳以下の子供への検査キットの無償配布、発症時の事前のセルフ検査を勧めていただき、円滑な医療機関受診に繋げていただきたい。また、診療型宿泊療養施設については体制整備のみならず、診療における最新の知見などを大阪府として研修会を行うなどして、さらに充実したものに繋げていただきたい。</u></p>